

## 経営効率化

昭和57年(1982年)よりNPS (NEW PRODUCTION SYSTEM) 研究会に参加した。

NPS研究会の委員長はトヨタかんぱん方式の創始者の一人である鈴木喜久男氏、理事長は元ウシオ電機社長の木下幹彌氏であった。NPS研究会入会に伴って、これを我が社に合わせた形で取り入れるためCPS (CHERRY PRODUCTION SYSTEM) 推進室を入会と同時に発足させ、経営効率化を目指した。

NPS研究会入会当時、社内は「無駄の山」であった。

「高速の大型プレスを使って大ロット生産すれば1個当りの原価は安くなる」という『作ってナンボ』の理論で生産していたため、工場中、「いつ売れるかわからない製品や仕掛品」で埋め尽くされていた。一頭のオスの「大鑑巨砲の大型プレス」の周りをメスの金型の群れが取り囲み、自分の出番が回ってくるのを待っているという姿が、オットセイのハーレムに似ていることから「オットセイ生産」を退治することから活動は始まった。従来の価値観を180度転換したNPS活動は、すぐに社内に受け入れられたわけではなかった。「NPSなんか学んでも原価は下がらない。身にならないことばかりやっているから納期が滅茶苦茶になるんだ」といった反NPS旋風が社内に吹き荒れた時、混乱を抑え、改善活動に向かわせたのは、「NPSは私の生きていく道だ。みんなついて来てくれ」と言う先代石川五男社長の強いリーダーシップであった。

